

K120.1

31a

5

稻垣千穎編述

小日本脩身書

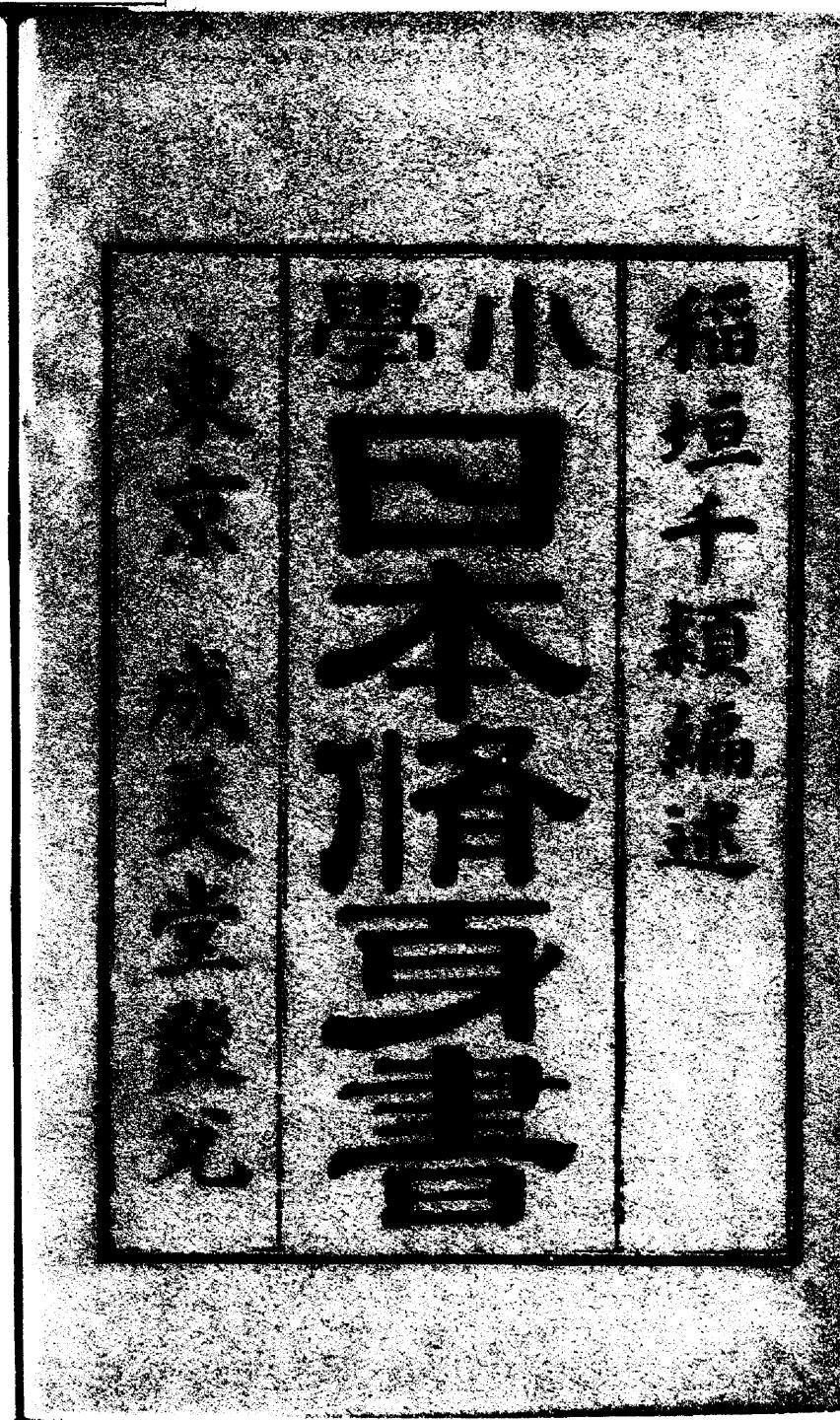
東京 成美堂發兌

小日本脩身書卷五

稻垣千穎編述

孝道

父母の恩、きはまり無きこと、天地にひたすら、
父母は、我が身のものなり、父母なくんぬは、何
よりも高し、海山は、かぎりあれども、父母のあ
くみは、かぎりなし、いかんじでか、これほも



小日本脩身書卷五

稻垣千穎編述

孝道

父母の恩、きはまり無きこと、天地にひとつ。
父母は、我か身のもとなり、父母なくんは、何
ぞ我あらんや、其の恩、海よりもふかく、山よ
りも高し、海山は、かぎりあれども、父母のめ
ぐみは、かぎりなし、いかんじてか、これにむ

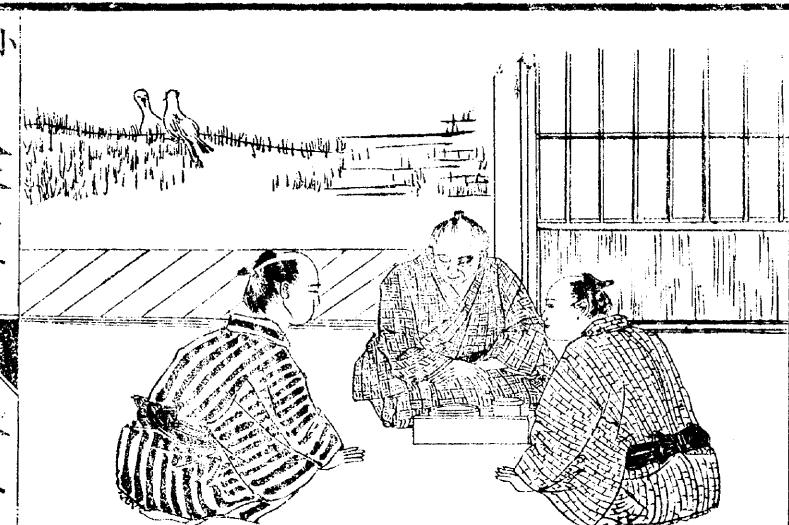
くいん、子たるもののは、たゞ孝をなひて、其の恩の萬一を、むくゆべきなり、父母に事へては、其の力をつくして、を一まざるべし。力とは、身と財との力をいふ、身のちから、あらんかぎりをつくして、つかへ、財のちから、の、わよばんかぎりをつくして、や一なふべきなり。

子ノ父母ヲ愛スル心。片時モ忘レザルベシ。

孝養
出雲の堀尾氏の士、伊達治左衛門といひて、よく力をつくして、父母に事へ一人なり、父母美味にあらされば、あかざる故、富まざれども、常に魚肉をたはへ、自れうりして



父母にすゝめ、父母も一わが室に来らんとする時は、美味をまうけ、一と杯を一まき、さて後に、父母のもとにゆきて、我が壯健なるを見たまへとて、負ひて、我が室につれ、顔色をよろこばし、聲をやはらげて事へければ、堀尾氏之をよみて、時々珍しき物をあたへて、二親に進めりめき、士皆いへり、國中、孝子なきにあらず、伊達氏の如き者なきなりと、ヨク父母ニ事フルヲ孝トス。



友愛

若狭國の與左衛門といふ農家に、二人の子ありて、兄を宗四郎といひ、弟を磯八といひ、宗四郎は養子、磯八は實子にて、もと義兄弟なれども、あひ一を一むこと、實の兄弟の

如くなり、宗四郎、父にこひて曰、弟は、正一く
大人の子なり、叔がはくは、家をつかせたま
へと、磯八の曰、余、たとひ實子たりとも、兄は
さきだつは、みちにそむけりとて、固くいな
みけるが、父死して後、兄弟いよいよゆづり
ければ、地頭之をほめて、宗四郎には、穀をあ
たへて、家をつかしめ、磯八には、月月俸禄を
賜ひけり、

兄弟三宣シキハ。讓ヨリヨキハ無シ。

悌道

本多忠勝卒するにのみ、家老某に書をの
らし、後のことを持てて曰、忠政は嫡子なれ
ば、跡をつかしめて、我が家の物品は、ことご
とくゆづらべし、次子忠朝は小身なれば、た
くはの金一万五千兩は、之にあたへよと、
忠勝卒して後、家老その言のとくせり、一
かるに、忠朝は、之を辭して曰、我小身なれば、
士卒をやーなふことも寡く、つひ江もまた

多からず、兄君は、士卒をやへなふことを多く、つひにもまた、我がたゞひにあらず故に受けずと、忠政大にはぢて、別に黄金ワカをあをへんとするに、忠朝かたく辭して受けず、兄弟たがひにあひゆづりて、決せざりければ、一門親類皆感心して、つひに其の黄金を二分せり、然るに忠朝は、之をも兄の金庫にをさめて、一生つかはざりけるとぞ、

兄ハ弟ヲアハレ三。弟ハ兄ヲ敬フベシ。

淑德

ト
徳川幕府に仕へ賤イハ
きところより身を木
こクーて、西丸留守居の
職ヨクにまでのほりたる、
小山大助といひ一人
の妻、恵智女は、常にた
はぶれあそぶことを
好まず、たゞり高ぶる

を惡み、よく舅姑につかへ、またよく其の子を教へけり。子も一文武のけいを、たこたる事あれば、之にさとし、なほ用ひぬ時は、みづからせめて、われ愚にして、かくの如き見をうめりとて、泣き悲みければ、兒も之に感じて、行をあらためき、かくの如くなりければ、多くの子は成長の後、皆よき人となりて、世に用ひられたり。

夫ノ賢愚ハ妻ヲ見テ知レ。

睦親

肥後國高戸村に木場長平次といふ者あり、家族五十四人、其の外に婢僕あまたありて、家にみちきれども、一家もつましく、互に心をあはせて、老いたるも若きも、其の身のほどに一たがひ、各業を分ちて、はげみいどなみ、手を空そくして、遊ぶ者なく、耻をとり身をつつしみ、もー内外につきて、大なる事ある時は、皆集り議して、其の上は、長平次の意

に任^{ブカ}せ、又親戚、其の他に、貧困の者あれば、厚く之を救ひ、施惠^{ホシイ}を旨とすれども、節儉を守るが故に、萬事に不足なく、安く世をすごせり、故に遠近の人みな賞^レて、名譽聞えざる所なく、祖父以来、今^ノの長平次に至るまで、舊藩主より賞典^{ハサシ}をたまへること、前後四回、維新の後も、縣廳^{ケンヤウ}其の實跡^{ジツセキ}を一らべ、部内の模範^{ハシラ}となるべき者なりとて、賞賜ありけり、親ヲシタシムヲ。大ナリトス。

戒慎

すべて物事は、心をつけたるうへにも、なほ心をつけて、忘れぬやう、また仕損^{シソ}ドなきやうにすべきなり、

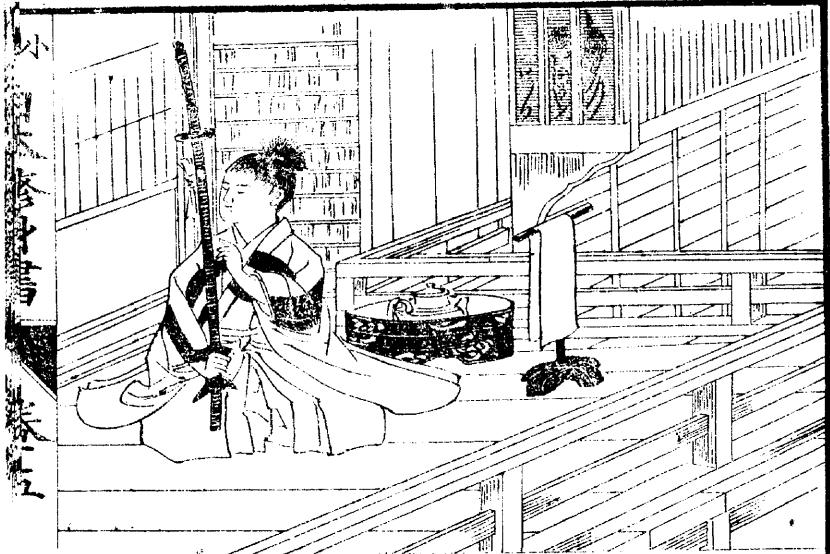
たとへは親より、他につたふべき口上をいひつけられなば、二度にても、三度にても、の前にてくりかへし、たがはぬやうにならひ覺^{ハシメ}、さて後に、先へゆきて、言ひつたふるやうにすべし、

また人より、手紙など、他にとどけくれよど
たのまれなば、其の手紙をは、落きぬやうに
しなほとぐるまでには、いくたびも心を
つくるがよろしきなり。

其の外日日の事につきて、何事も、手れわな
きやう、言ひそんドせぬやう、常によく心を
用ひて、あはれ心きゝたる兒よと、人に用ひ
らるゝやう、心がくべきなり。

念ニハ念ヲ入レヨ。

正直
織田信長公廁にゆか
れ一時森蘭丸公の刀
を持ちて、ひかへなが
ら、鞘のきぎみの數を、
かぞへゐたり、公、廁の
まどより、之を見て、あ
る時諸士をあつめ、我
の刀を取出して、此の



さやのきざみの數を、いひあてたる者に、興
へんといはれければ、諸士みな、たもひくれ
一はかりて數をいふに、蘭丸一人は、何もい
はず、公其の故をとはれけるに、先日、廁の御
供せ一時、かそへ候ふ故に、申さずと答へけ
れば、公其の正直なるをほめて、其の刀をは
蘭丸にたまへり、蘭丸之より、公に信用せら
れて、十六歳の時には、五万石を領せり、
正直ハ幸福ヲウム母ナリ。

公正

徳川家八代將軍吉宗
公、いまだ和歌山藩主
たり。一時、和歌山人と、
伊勢の山田人とに係
る訟あり。一に、和歌山
は、徳川將軍の親藩な
るを以て、時の山田奉
行、其の威をたそれて、

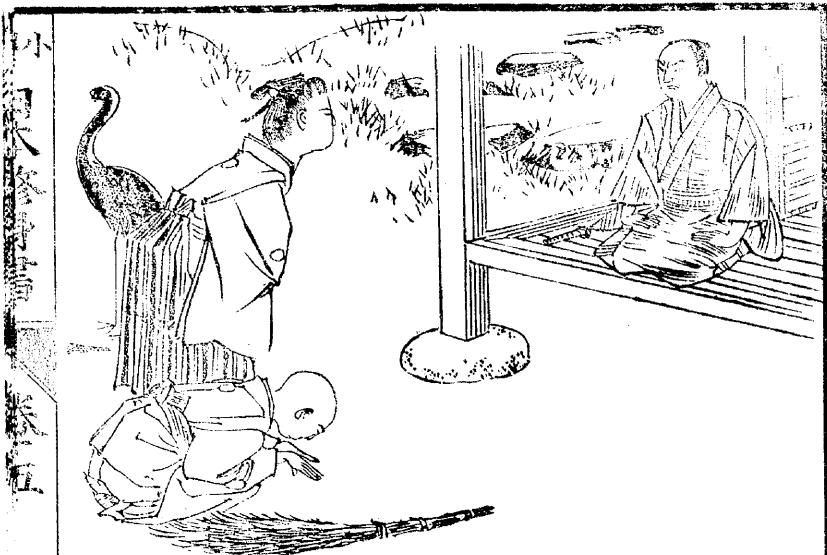
年をかさぬれども、決することなかりけるに、大岡忠相、山田奉行となり、此の訟をきくに及びて、直に裁判にて、山田人の勝とせり。後吉宗入りて宗家を繼ぐに及びて、忠相の公正なるを嘉し、擧げて江戸町奉行とせり。忠相、かくの如く、懼れずまへず、公正の心を以て、主につかへければ、名譽ますくあらはれて、後寺社奉行に進み、終に大名になれり。

心正シケレバ。事方ノツカラ正シ。

不敗

保科彈正鶴の香煙を

求め、之にふるびをつ
けんとて、庭にさらされ
きしを、十三郎とい
ふ小姓、之をもてあそ
び、あやまちて舌をを
りけるを、ひそかに便
粒にて附けられ、後



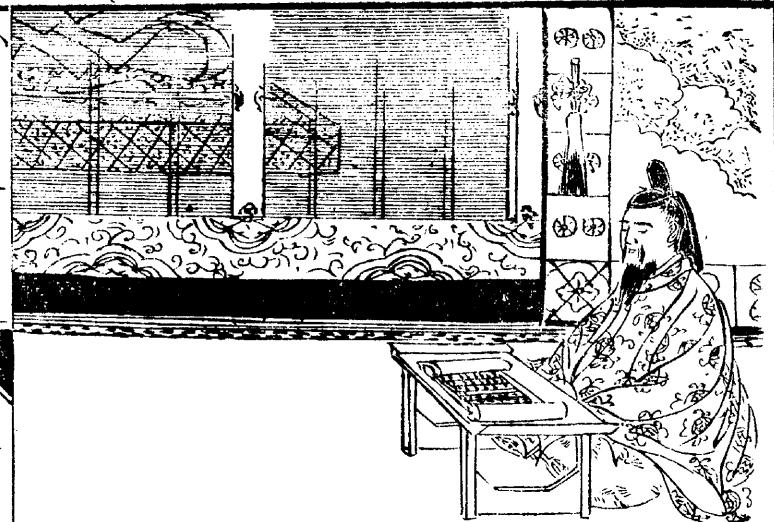
に玄徳といふ小坊主、庭のさうぢする時、香
爐にかゝれる蜘蛛のすをはらひしに、古た
ちまちれちたり、彈正出来て、たがそんせり
といへば、十三郎、傍より、玄徳なりと答ふ、玄
徳平服せりかは、彈正は、十三郎に命トて、玄
徳に水を注がしむるに、十三郎命の如くせ
り、彈正怒りて、十三郎は、己がとがを人にた
はする不^{アシテ}將者なりとて、たひ出せり、

平生ノ心真實ニシテ、偽ナカルベシ。

徳川家康公、三河に在
り、一時、酒井政親を以
て執事とせり、其の頃
新に禄千石にて、徳川
氏に抱へられたる、神
谷某、政親に無禮なる
よしを、公聞きて、八百
石に減せられければ、



政親、公に請ひて曰、政親不肖ながら、今公の家に執事たるを以て、公の家人、政親を見れば、皆卑遜せざる者なきに、神谷獨然らざるは、たもふに、彼は剛直にして、忠義の士なるべし、二千石を賜はりて然るべしと、公神谷に千五百石を與へ、且つぶさに政親の言を以て、之に告げられければ、神谷感泣して退き、政親の許にゆきて、前日の罪を謝せり、事ヲ慶スルニハ心ノ公ナルヲ貴フ。



謙退

春澄ハルタツ

善繩ヨシナハ

綱キハ

幼カヒ

より智

慧人エイジンにすぐれければ、
その祖父財曆マロカツ、家産を
つくして、學問をせさせーに、善繩手に書冊
をはなたず、日夜勉強
し、長するに及びて、博
學世にならぶもの無

く、身をたこして、文章博士となり、文德天皇の御時には、御前にめされ、講義を申上したり、然れども、性つゝみふかくして、人をいのがす、常に謙遜ケンソン一て、何事も知らざる者の如くせり、時の博士たちをがひに黨派タウ派をたてて、相輕カロんどあなたざりけれども、善繩ナカツひとり、とりぞきて身を守り一かば、つひに人のそりを、うけざりけり、

能アル鷹ハ。爪ヲカクス。

勤學
小川泰山、幼にして山本北山を師としまなび、かかる大風大雨の日といへども、一日も通學トウガクをたこたることなかりけり、其の十歳の冬、大雪ふりて、傘ヤシマツを持つこと能はざる



に、大なる笠をいたゞきて、例のごとく北山の所にゆかんとせりに、雪ますく甚しくふり来り、笠の上に多くつもりて、あゆむことかなはずして、途に倒れ居たるを、通行の者見て、あはれに思ひ、抱きれて、家にかへさんとすれども、泰山きかず、辛くして師のもとにいたり、平日の如く、業をうけてかへれり、

幼ヨリ勉メ學スニ暇ヲヲシムベシ。

蓄積

金錢をたくはへれきて、不時の用にあてんと思はば、はやくより積みはトむべし、はためは、すくなきやうなれども、歳月をつむ時は、思の外に、大なる高になるものなり、すべて人は、少年の時より、貯蓄の事を心がくべし、少年より財蓄を心がければ、壯年におよびても、驕奢の心をこらすりて、わのづから勤勉忍耐の人となるべし、たよそ世の中の

事業をなす、又は、一技一藝に名をなす人は、必勤勉忍耐にあらざれば、とぐる事能はざる者なり、ことに女子は、長くて後は、一家の經濟を引受け、家内の出納スヰナフをあづかる者なれば、幼き時より、よく貯蓄の事にならひ、小さいの物といへども、空しくせず、無益のつひ江を省きて、積みたくはふることも、また一の、つとめなりと知るべし。

勤儉ナル人ヨク事ヲ成ス。



博愛

醍醐天皇御位にま
ま一イこと三十三年、
其の間、終始一日のご
とく、民をあはれみ、仁
をほごこすを以て、御
心と一イをまへり、ある
冬、夜ふけて、寒氣ごと
にはげ一イきに、御衣を

ぬがせたまひければ、人人あやしみて、其の
故を問ひ奉りしに、此のごろ氣候とどにさ
むし、朕がごとく、九重の内に居て、衣をかさ
ぬるも、なほたへがたし、天下の貧しき民の
中には、必とごゆる者あらん、朕ひとりかさ
ぬ著るに忍びず、とのたまへり、御代御代の
天皇、民を愛したまひこと、かくの如し、臣
民たる者、報い奉らずして、可ならんや、
民ラ視ルコト。傷ツクガゴトシ。



惠施

徳川秀忠公の乳母某
は、毎月二三回づつ、下
部の者どもを多く臺
所によびあつめ、自給
仕立て、饗應するを以
て、平生のたのりみと
せり、ある日、日本多正信
來り、之を見て、君は婢

僕多くつかはる、御身にて、何とて、自か
くは一たまふぞ、といひければ、某容を整へ
て、姿昔賤一かりー時、一飯を人に施さんと
するも、能はざりき、然るに、今數十人を集め
て、食にあかーむることを得るは、みな國の
恩なり、いかで、昔の賤一かりー時のことを
あするべき、といひければ、正信はぢて、こと
ばなくーて立ち去れり、

富ニテ貧シキヲ忘レズ。



仁恤

足利義満

十一歳

アシカ
カバ
ミツ

ナリ
一時、手飼テガシにせー小鳥
を、其の近習の者、あや
まりて取りにがーけれ
れば、恐れて罪を待ち、
他の者どもも、皆いか
がせらるらんと憂へ
居たり、義満これを見

て、某は善き事を一たり、れよそ鳥を籠に入
れたくは、たゞへば、人を牢屋に入れれくと、
れなド事なれば、いかばかりか窮屈ならん
と察一て、余もとくより、放ちやらんと思ひ
一をりなり、某のあやまちにては無きなり、
といひければ、人人意外のことと思ひて、こ
れよりことに、義滿をうやまひたふとびけ
るとぞ、

ナサケハ。人ノ爲ナラズ。



利民

備中國哲多郡なる、長
屋村と蟹村との境に、
たよそ四五十間はか
り、岸絶壁あり、其の
下は深き淵なるが故
に、綱をひきて、船を上
下し、僅に人馬を通ト
其の不便にして、且危

事、言ふばかり無かり一を、長屋村の岡本嘉藏といふ者、大工を業とし、餘資あれば、木材、釘等の費にあて、巖石をくださり、機道を築し、資つくれば、本業に復し、三年の間、少くも倦む事なく、他人よりは、一錢の助をもあふがずして、遂に功を奏し、此より車馬も自由に往来し、深淵も埋りて、徒渉すべき淺瀬となりて、今は昔の危険を知る者なくなれり、國ニ益アルヲ務メ人ヲ濟フ事ヲ務メヨ。

義勇

元弘の亂に護良親王、大和の十津川より、吉野にのがれたまふ、土人芋瀬某、賊軍に黨にて、之を途に要せんとす、親王、人をつかはりて、芋瀬に説かしめたまひければ、芋瀬路を

ひらきて、願くは御旗をたまひて、賊將への
申譯にせんと請ふ、親王、これに錦旗を授け
て過ぎたまふ、村上義光後れて至り、芋瀬が
卒の錦旗を荷ひて還るを見て、錦旗は汝等
のどるべき物にあらずとて、直にすゝみ、卒
をつかみて數歩の外になげ、御旗を取りか
へて、過ぎ行きける、其の勢に畏れて、芋瀬
は追ひ行くこと能はざりけり、

勇者ハ懼レズ。

盡忠

護良親王、吉野に籠ら
せたまふを、賊軍大勢
四方より來り攻め、城
まさに陥らんとつけ
れば、義光、親王にすゝ
めて、のがれ去らしめ、
自其の御鎧を著、親王
と偽りて、寄手の兵に



當り、子義隆を以て、親王の爲に追兵を拒か
リめ、親王の遠く落延び賜ふを慶り、櫓に登
りて、今上第三の皇子護良が死を決するぞ
や、汝等ゆくは天誅をうけん、我が自刃す
るを見て、手本とせよやとて、腹を刺し、腸を
出し、壁になげつけて斃れたり、義隆また留
り鬪ひ、身十餘創を被りて、死せりかば、親王
は、此の間に難を逃れて落ちさせ賜へり、
君ニ事ヘテヨク其ノ身ヲイタス。

小日本脩身書卷五

終

明治二十五年五月五日出

刷

明治二十五年九月廿八日印

刷

明治二十五年九月廿九日訂正再版

著作者

稻垣千穎

東京市下谷區仲篠町三丁目廿二番地

三浦源助

岐阜市米屋町廿二番戸發行兼
印刷人

權版所

發賣所

成美堂支店

發賣所

石井鉤三郎

大坂市東區備後町四丁目

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
3310
3311
3312
3313
3314
3315
3316
3317
3318
3319
3320
3321
3322
3323
3324
3325
3326
3327
3328
3329
3330
3331
3332
3333
3334
3335
3336
3337
3338
3339
3340
3341
3342
3343
3344
3345
3346
3347
3348
3349
3350
3351
3352
3353
3354
3355
3356
3357
3358
3359
3360
3361
3362
3363
3364
3365
3366
3367
3368
3369
3370
3371
3372
3373
3374
3375
3376
3377
3378
3379
3380
3381
3382
3383
3384
3385
3386
3387
3388
3389
3390
3391
3392
3393
3394
3395
3396
3397
3398
3399
33910
33911
33912
33913
33914
33915
33916
33917
33918
33919
33920
33921
33922
33923
33924
33925
33926
33927
33928
33929
33930
33931
33932
33933
33934
33935
33936
33937
33938
33939
33940
33941
33942
33943
33944
33945
33946
33947
33948
33949
33950
33951
33952
33953
33954
33955
33956
33957
33958
33959
33960
33961
33962
33963
33964
33965
33966
33967
33968
33969
33970
33971
33972
33973
33974
33975
33976
33977
33978
33979
33980
33981
33982
33983
33984
33985
33986
33987
33988
33989
33990
33991
33992
33993
33994
33995
33996
33997
33998
33999
339100
339111
339122
339133
339144
339155
339166
339177
339188
339199
339200
339211
339222
339233
339244
339255
339266
339277
339288
339299
339300
339311
339322
339333
339344
339355
339366
339377
339388
339399
339400
339411
339422
339433
339444
339455
339466
339477
339488
339499
339500
339511
339522
339533
339544
339555
339566
339577
339588
339599
339600
339611
339622
339633
339644
339655
339666
339677
339688
339699
339700
339711
339722
339733
339744
339755
339766
339777
339788
339799
339800
339811
339822
339833
339844
339855
339866
339877
339888
339899
339900
339911
339922
339933
339944
339955
339966
339977
339988
339999
3399100